

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿屋体育大学

1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に生かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、国際社会で活躍できる有為な人材を養成するとともに、東京オリンピック・パラリンピック大会での活躍を目指す学生をはじめ、国内のトップアスリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「KANOYAモデル」の地域活性化戦略事業を集約し、より大学と地域の一体感を醸成するため「Blue Winds事業」を展開し、KANOYAモデルをベースとして地域密着スポーツブランドを使った取組を進め、大学スポーツの振興により鹿屋市を中核とした地域活性化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 第3期中期目標期間におけるスポーツパフォーマンス研究センターを活用した研究プロジェクトについて検証を行い、令和元年度のスポーツ医科学・情報工学関連の研究プロジェクトは、対平成27年度比で49件増、連携研究者数は、対平成27年度比で4名増、連携する海外の研究者の総数は、平成28年度～令和元年度で21か国・地域の82名に上り、スポーツパフォーマンス研究が推進されていることが確認されている。（ユニット「スポーツ指導の質の向上及び国際競技力向上を目的としたスポーツパフォーマンス研究の推進」に関する取組）
- 国立体育大学（台湾）関係者及び東京2020オリンピック競技大会に出場予定の選手を含む台湾競泳チーム関係者を受け入れ、実験プール等において、測定及びデータ解析、水泳部との合同練習を実施している。（ユニット「スポーツ界で活躍できるグローバル人材の育成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

| | 特 筆 | 一定の 注目事項 | 順 調 | おおむね 順調 | 遅れ | 重大な 改善事項 |
|-------------------|-----|-------------|-----|------------|----|-------------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化 | | | ○ | | | |
| (2) 財務内容の改善 | | | ○ | | | |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 | | | ○ | | | |
| (4) その他業務運営 | | | ○ | | | |

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致

オリンピック・パラリンピック戦略推進室を中心に、鹿屋市及び鹿児島県に加えて曾於郡大崎町と協力し、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致活動を行い、自治体と台湾及びトリニダード・トバゴ共和国との協定書締結へ貢献するなどオリンピック・パラリンピック関連の事業を推進している。

○ スポーツを通じた地域活性化戦略事業の展開

「KANOYAモデル」の地域活性化戦略事業を集約し、より大学と地域の一体感を醸成するため、KANOYAモデルをベースにして地域密着スポーツブランドを使った取組を進め、大学スポーツの振興により鹿屋市を中核とした地域の活性化を図る「Blue Winds事業」として展開している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 「鹿屋体育大学教学アセスメント・ポリシー」の制定

学生の学修到達度を評価・検証するための指針として「鹿屋体育大学教学アセスメント・ポリシー」を令和元年7月に制定したことにより、入学前・直後、在学中及び卒業時・卒業後において、機関レベル、教育課程レベル及び科目レベルの3段階で、学生の学修到達度を評価・検証ができるようになり、教育の質向上が図られるとともに教員のファカルティ・ディベロップメント(FD)研修においても本ポリシーを有効に活用している。